

住民が安心して住み続けられるための地域医療を！

地域医療を守る共同行動 みやぎ連絡会

News

2022.10.21.FRI No.107

発行／地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会事務局
〒983-0047 仙台市宮城野区銀杏町39-18（民医労内）
TEL 022-782-0633／FAX 022-782-0634

東北労災病院・県立精神医療センター移転 合築建設予定地は元調整池もあり！

～調整池コンクリート擁壁は？移転の大きな落とし穴にも～

<https://www.map-navi.com/town/42160003008.html>

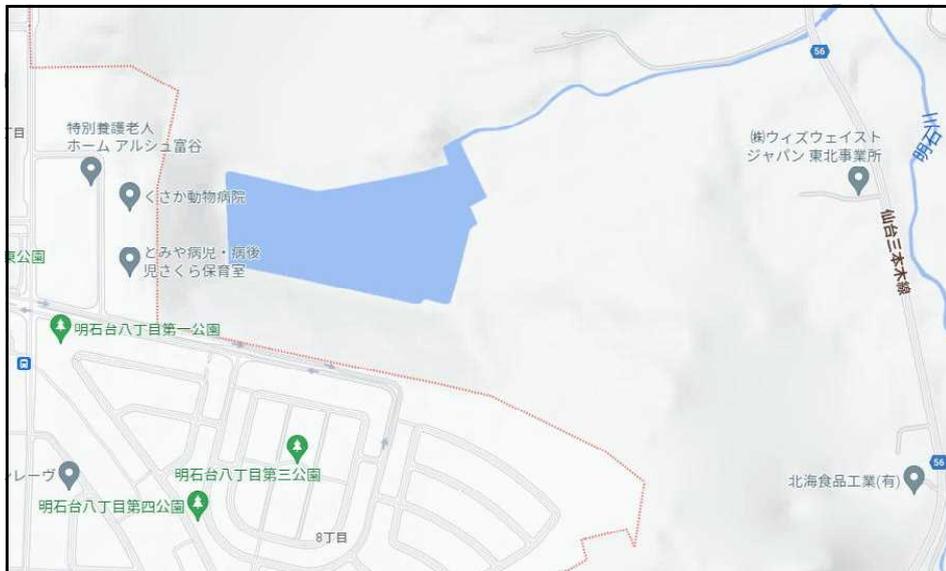


県立精神医療センター老朽化に伴い、4年前に3億円をかけて県立がんセンター（名取市）西側への移転地の基本設計までできていました。

富谷市が宮城県へ提案した移転場所案（2022年5月27日）



Googleマップで見ると 航空写真&レイヤー
建設予定地の元調整池の大きさがよくわかります



(注 / 報道記事転載の為、組織内資料扱)

精神科救急医療の提供、計画に沿った運用を評価 宮城県立病院機構、コロナ影響も専門性維持

<https://news.yahoo.co.jp/articles/d355e7c188d416f7936054081b0676a13deec46a>

2022年10月11日 医療介護CBニュース

地方独立行政法人宮城県立病院機構はこのほど、第3期中期目標暫定評価期間の業務実績評価結果を公表した。県立精神医療センターと県立がんセンターについて「新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、専門性を維持し、持続的に県民へ医療提供を行ったことが認められる」としている。

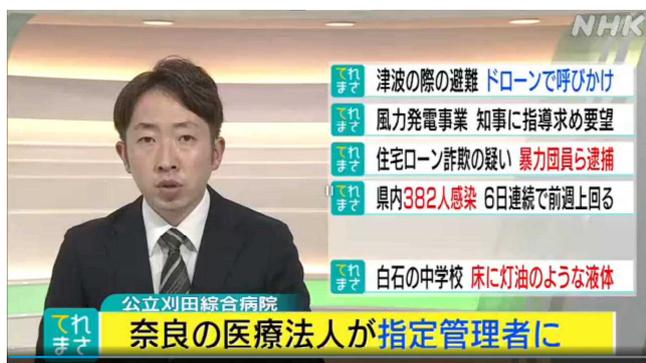
現在の中期目標期間中（2019－22年度）は、19年度と21年度に中期目標で掲げた経常収支比率100%以上を達成した。今後は、新型コロナウイルス感染症の収束なども見据えた収支改善の検討・実践に努める必要があるという。

精神医療センターについては、「暫定評価期間中、精神科救急医療の提供、地域移行・地域定着支援の実施、児童思春期医療の提供においては、計画に沿った運用ができた」と評価。がんセンターについても、高度医療や調査研究で成果を挙げたことなどを評価している。

刈田総合病院 奈良の医療法人を指定管理者に正式決定

<https://www3.nhk.or.jp/tohoku-news/20221017/6000021321.html>

2022年10月17日 NHK仙台放送



来年4月に公設民営化される白石市の公立刈田総合病院で、17日、組合議会が開かれ、病院の管理・運営を担う指定管理者を奈良市の医療法人とすることが正式に決まりました。

公立刈田総合病院は、白石市と蔵王町、七ヶ宿町の1市2町でつくる組合が運営する病院で、大きな累積赤字が課題となり、来年4月から公設民営の病院として運営を行っていく予定です。

17日は、1市2町の議員が出席して病院の組合議会が開かれ、前回の審査会で指定管理者の候補に選ばれた奈良市の医療法人「仁誠会」について、およそ1時間、質疑応答が行われたあと、採決が行われました。

その結果、議長を除く議員8人のうち、賛成5、反対3の賛成多数で、この医療法人を指定管理者とすることが正式に決まりました。

組合の管理者でもある白石市の山田裕一市長は「指定管理者が正式に決まり、まずはホッとしている。公設民営化に向けた作業をなるべく早く進め、同時に市民の皆さんにも理解を求めていきたい」と話していました。

刈田総合病院は、来月中に医療法人「仁誠会」と運営に関する協定を締結し、来年4月から公設民営の病院としてスタートします。

刈田総合病院の指定管理者に奈良市の「仁誠会」正式決定 宮城・白石市

<https://newsdig.tbs.co.jp/articles/tbc/180808?display=1>

2022年10月17日 tbc東北放送



公立刈田総合病院の公設民営化を巡り宮城県の白石市、蔵王町、七ヶ宿町がつくる病院の組合議会は17日、指定管理者を奈良市の医療法人「仁誠会（じんせいかい）」とすることを賛成多数で可決しました。今後、来年4月の公設民営化に向け協議が本格化することになります。

組合議会では、公立刈田総合病院の指定管理者に奈良市の医療法人、仁誠会とすることを賛成5反対3の賛成多数で可決しました。指定の期間は来年4月1日からの10年間です。

組合の管理者を務める山田裕一白石市長：

「(指定管理者の)母体が自治医科大学出身の医師ということで、全国に幅広くネットワークがあること、本院でも現在も自治医科大学から医師が着任しているので本院の現状もそういったネットワークから知っている」と判断している」

議決により、刈田総合病院は来年4月から仁誠会が運営する白石市立の病院としてスタートを切ることが正式に決定しました。白石市と仁誠会は今後、医療提供態勢に関する協議を本格化し、10月中にも基本協定を締結することとしています。

奈良の医療法人が指定管理者 公立刈田総合病院 答申を受けて議決〈宮城・白石市〉

<https://youtu.be/fkpotN-rCWw>

2022年10月17日 仙台放送



来年4月から公設民営で運営される白石市の公立刈田総合病院について、10月17日、病院を管理する組合の臨時議会が開かれ、奈良県の医療法人を指定管理者とすることを正式に決めました。

白石市の公立刈田総合病院は白石市、蔵王町、七ヶ宿町の1市2町でつくる組合が運営していて長らく累積赤字が課題となり、来年4月から「公設民営」の病院として運営される予定です。

運営先を選定する審査会では10月、指定管理者の候補として奈良県の医療法人「仁誠会」を妥当とする答申をしています。これを受けて10月17日、組合の臨時議会が開かれ、「仁誠会」を指定管理者とする議案について、賛成5、反対3の賛成多数で可決しました。

白石市 山田裕一 市長

「正直なところほっとしています。11月に住民説明会も開催し、今後詳細な内容などを市民の皆さんに、丁寧に説明発信できるよう、今後さらに努めていきたい」

組合では11月、医療法人と協定を結ぶ予定です。

白石・刈田病院

組合議会在が議案可決

指定管理仁誠会に決定

白石市の公立刈田総合病院の公設民営化で、市と蔵



組合議会の起立採決で市議3人は「判断する材料が示されていない」として賛成しなかった

王、七ヶ宿の1市2町議員で構成する組合議会臨時会は17日、奈良市の医療法人「仁誠会」を指定管理者とする議案を賛成多数で可決した。来年4月の市立病院移行と同時に今後10年間の運営を託す指定管理者が正式に決定した。

起立採決で市議3人と蔵王、七ヶ宿の各町議の計5人が賛成、公設民営慎重派の市議3人が反対した。松野久郎組合議会議長は「次のステップに進むことがで

き、まずは一安心だ。組合と法人が結ぶ協定の内容を注視したい」と述べた。

組合と法人は協定締結に向け、市が中心的役割を果たしながら協議を本格化させる。市は推進すべきプロジェクトに周産期医療の復活などを掲げており、締結後は速やかに新体制移行の準備に入る。

締結は職員組合との団体交渉の日程調整で当初想定した今月でなく、11月となる。これとは別に、1市2

町は組合解散の議案を11月中旬に1市2町議会に提出するよう調整を進める。

組合管理者の山田裕一市長は「地域医療に空白を生じさせかねないぎりぎりの時期だった。法人と協議を重ね、11月中に協定を締結したい」と話した。

宮城・公立刈田総合病院

公設民営化の指定管理者は奈良市の医療法人に決定

https://youtu.be/Hr-TYSomt_o

2022年10月18日 khb東日本放送



2023年4月に公設民営化される、宮城県白石市の公立刈田総合病院の指定管理者が奈良市の医療法人、仁誠会に決まりました。

公立刈田総合病院は、白石市と蔵王町、七ヶ宿町でつくる組合が運営していて、赤字が続いているため、2023年4月に運営を民間の指定管理者に任せる方針です。

指定管理者の選定をめぐり17日に組合議会が開かれ、奈良市の医療法人、仁誠会を指定管理者とする議案が提案されました。

採決の結果、議案は賛成5反対3の賛成多数で可決され、仁誠会が指定管理者に決まりました。組合は11月中に、仁誠会と基本協定を締結する予定です。

2022年10月18日 河北新報

超音波先端治療で国内トップクラスの実績



MR Iの画像を見ながら進める治療をヘシュマット医師(右)に説明する仁村脳神経外科部長(同2人目)

手などの震えを起す脳神経の病氣「本態性振戦」と「パーキンソン病」を治す先端機器を東北で唯一導入する宮城病院(山元町)で、機器を用いた集束超音波治療(FUS)をオーストラリアの医師が視察した。宮城病院は同治療の年間実施件数が国内でトップクラスとなっており、治療法の周知にも力を注ぐ。治療はFUSの機器を使い、約1000個の超音波発生素子が埋め込まれたへ

「将来連携も」



MR Iの装置に取り付けられた集束超音波治療機器

のサムン・ヘシュマット医師が、脳神経外科医や看護師、放射線技師ら7人が治療に当たる様子を2時間半にわたり視察した。ゴールドコースト病院の関連大学病院は来年、FUSの導入をオーストラリアのサムン・ヘシュマット医師が、脳神経外科医や看護師、放射線技師ら7人が治療に当たる様子を2時間半にわたり視察した。ゴールドコースト病院の関連大学病院は来年、FUSの導入をオーストラリア

ルメットを患者に装着して3例目として予定する。へ実施。医師が磁気共鳴画像(MRI)を見ながら患者の脳の視床にある治療部位を0.1mm単位で特定し、超音波を集束させて熱で固め、症状を改善させる。宮城病院は2020年7月、従来の頭部を切る手術に比べ、出血や感染症のリスクが大幅に抑えられ、患者の負担が軽減される。視察があった4日は仙台市に住むパーキンソン病の70代男性の治療が行われた。ゴールドコースト病院のサムン・ヘシュマット医師が、脳神経外科医や看護師、放射線技師ら7人が治療に当たる様子を2時間半にわたり視察した。ゴールドコースト病院の関連大学病院は来年、FUSの導入をオーストラリア

宮城病院を豪医師視察